



[ハレとケのまち京都]

景 035 (H22) 歴 013 (H22)

糸関係の貿易商である2代目宮川捨三郎によって大正15年に建てられた後、所有者が変わり、現在の所有者が平成13年に購入後に、大正から昭和初期当時の建物を再現するかたちで内部の改修が進められました。

元誓願寺通に面して主屋が建ち、座敷庭をはさんで土蔵が建つ、西陣における表屋造りの典型的な町家です。

主屋は、瓦葺切妻平入の木造2階建てで、道路に面する部分にミセノマ、ミセニワがあり、玄関庭を挟んで住居部分につながっています。正面の腰壁は下見板を用いず一枚板を使用しており、柱、梁、鴨居、垂木、破風板、その他木部分はベンガラ色に塗られています。奥座敷は仏間、天袋、違い棚、床の間、付書院などで構成され、床柱に柵を用いています。手入れの行き届いた座敷庭の樹木、石灯籠、手水鉢などは極めて良好な状態が保たれています。

主屋と同時期に建てられた土蔵は、瓦葺切妻平入の木造2階建てで、外壁は主に漆喰塗り、妻側の一部に杉板が張られています。

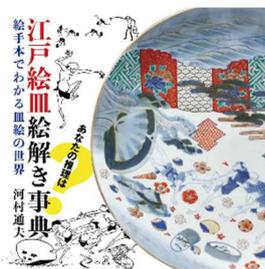
現在の江戸絵皿絵解き館は、江戸絵皿絵解き研究家の河村通夫が、娘婿と共に鉋を手に15年かけ修復したものです。江戸絵皿千枚、江戸絵手本等500冊ほどを収集、照合研究した成果は「江戸絵皿絵解き事典」(講談社)として2020年に出版されました。



玄関



座敷



〒602-8443 京都市上京区元誓願寺通大宮西入元妙蓮寺町553

アクセス 地下鉄烏丸線「今出川駅」徒歩約14分

ホームページ <https://etoki.kawamuramichio.com/tomo/>

※「江戸絵皿絵解き事典」の立ち読みができます。

その他コレクションも掲載しています。

